台大日本語文研究第 10 期
2005 年 12 月，頁 85～106

『窗口邊的豆豆』中譯本之詞彙

- 以第一章到第十章為例 -

林立萍 *

摘要

本研究主要是想究明銷售量破百萬以上的《窓ぎわのトットちゃん》(黑柳徹子著 1981 年)中文譯本中詞彙的使用情形，藉以作爲實踐比較語彙研究（田島毓堂 1995）之一環。文中將報告調查過程、並試以與該日文原文相互對照的方式，從數量上的觀點揭示並探討第一章到第十章的詞彙特徵。

調查、探討時所使用的中文譯本主要是以「銷售情形」與「取得容易性」作爲考量，選定《窗口邊的豆豆》(世茂出版 1986 年)。就目前的調查結果發現：該中譯本中符號的使用情形和日語原文相差不多，但就每章每一單詞之平均使用率而言，中譯本比日語原文來的低。筆者認爲這並非偶然，可能是和日語帶有「膠著語」特性有關，因爲“テニヲハ”助詞的多用，才浮現出此一數量上的差異。

當然，有關本研究更實質的分析報告還待日後的調查完成後完整提出。透過語言了解異語言間之文化異同是比較語彙研究的宗旨。本稿不僅證實了透過《窓ぎわのトットちゃん》該作品進行比較語彙研究之可能性，同時也爲該研究奠下根基。就此點而言意義深遠。

* 台灣大學日本語文學系副教授

關鍵詞：比較語彙論、窗口邊的豆豆、使用率

Vocabulary of the Chinese Translation of the Book Entitled “Modogiwa no Totto-chan”

- Discussion from Chapter 1 to Chapter 10 -

LIN Li-ping*

Abstract

The purpose of this study is to discuss the use of vocabulary in the Chinese translation of the book entitled “Modogiwa no Totto-chan” (written by Kuroyanagi, Tetsuko in 1981) with a record-breaking sale of one million copies, in hopes of conducting the Comparative Study of Vocabulary (田島毓堂, 1995.) The study attempts to reveal and discuss the characteristics of the vocabulary from Chapter 1 to Chapter 10 of the book based on the number of vocabulary, by comparing the Chinese translation version with the Japanese source text.

The book entitled “窗口邊的豆豆” (世茂出版,1986) has been selected for research and discussion on the basis of “book sale conditions” and “accessibility.” The current research findings suggest that the use of symbols in the Chinese translation version is not significantly different from the

* Associate Professor of the Department of Japanese Language and Literature, National Taiwan University

Japanese source text, but the average rate of word use for each chapter is lower for the Chinese translation version than that for the Japanese source text. I believe that such findings are not occasional, and are possibly related to the “agglutinative language” inherent in the Japanese language, because this difference in the number of vocabulary may be caused by the overuse of the auxiliary word “テニヲハ.”

A more substantial analysis report of this research will be submitted after subsequent studies have been completed. The objective of the Comparative Study of Vocabulary is to understand the differences and similarity of cultures inherent in different languages, from a discussion of languages. This article confirms the possibility of conducting the Comparative Study of Vocabulary of the book entitled “Modogiwa no Totto-chan” and sets a foundation for this research, which is greatly meaningful.

Key words: Comparative Study of Vocabulary, 窗口邊的豆豆, Use Rate

中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』語彙データについて
―第１章から第 10 章までを一例に―

林立萍 *

要旨

本稿では、比較語彙研究（田島毓堂 1995）を実践する一環として異例のミリオンセラーとなった『窓ぎわのトットちゃん』（黒柳徹子著 1981 年）の中国語訳を取り上げ、その語彙調査の過程を報告し、日本語原文の語彙データと対照しながら、数量的な面から第１章から第 10 章までの語彙データの一部を提示してみる。

結果としては、普及さと入手しやすさとの２点で、まず『窗口邊的豆豆』（世茂出版、1986 年）を調査するためのテキストとして選定した。そのうち、記号の使用は、日本語原文と中国語訳とでは大差が見られないが、各章の一語平均使用回数が日本語原文のより低いという異同点が浮かび上がった。これは、偶然的であると考えにくく、おそらく、膠着語の性格が強い日本語は、孤立語である中国語と比べて“テニヲハ”などといった助詞の多用と深く関係していると考えられよう。

本編となるべき実質的な分析は、今後、語彙調査の完成によって完全するが、これによって当該作品を通す異言語間の文化・理解を目指す比較語彙研究の可能性が実証され、同時にその研究の基盤作りともなる。この点で意義が大である。

キーワード：比較語彙研究、窓ぎわのトットちゃん、使用率

* 台湾大学日本語文学科系副教授

中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』語彙データについて
―第１章から第 10 章までを一例に―

林立萍

１．はじめに

周知のように、黒柳徹子著の『窓ぎわのトットちゃん』は、1981 年に日本で発行されてから異例のミリオンセラーになった。話し言葉に近く、分かりやすい文章で、5 歳から 103 歳までの日本人だけに限らず、英語版を始め、韓国語など十数個の言語に訳され、世界の多くの人々に愛読されている。そのうち、中国語の訳本だけを限ってみても、十種類（後述）もある。このような性格を帯びている作品（個別テキスト）は、異言語間の対照研究にとって好都合の資料である。

異言語間の対照研究には、語の集まりとして語彙の面に着目しその背後にある異文化の理解・比較を探ろうとする、田島毓堂 1995 の提唱する比較語彙研究がある。具体的には、語彙分類を通し、その意味性と数量性からその言語集団の考え方、ものの見方などといった言語の諸相を見極めるということである。今日までは、すでに多くの研究成果が生み出され、従来の語彙研究を一層広げるようになった。田島毓堂 2000 は、さらに上述の理由で『窓ぎわのトットちゃん』語彙データの一部を公表し異言語間の比較語彙研究を実証しようとしている。これに関連する種々の研究成果もその後続々と発表し、その基調語彙と基幹語彙の選定や、使用率と分布といった数値の問題までも追究している。

『窓ぎわのトットちゃん』を中心とする比較語彙研究については、現在韓国語訳やインドネシア語訳の語彙データも構

築中[1]で、その分析報告が待たれている。林立萍 2002 は、その一環として、中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』の語彙データの構築にも取りくみ始めた。本稿は、その中間報告の一つとして語彙調査の過程、そして数量的な面から第 1 章から第 10 章までの語彙データを提示し、原文との比較を試みてみる。

2.『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳本について

表 1 は、執筆する現時点までに台湾で出版された『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳の訳本の一覧である。各欄は、それぞれ、書名の中訳、訳者、出版社、出版年との順番で、全部で 10 種類もある。

（表 1） 『窓ぎわのトットちゃん』の中国語諸訳本

版本	書名の中訳	訳者	出版社	出版年	注
1	窗邊的小華	徐思	鑑賞	1981	
2	愛的教育	朱佩蘭	自立晚報	1982	
3	冬冬的學校生活	李雀美	大佳	1982	
4	**窗口邊的荳荳**	**力爭**	**鹽巴**	**1983**	
5	**窗口邊的豆豆**	**蕭曉**	**世茂**	**1986**	
6	**窗邊的小荳荳**	**朱曉蘭**	**小暢書房**	**1988**	
7	**窗邊的小荳荳**	**朱曉蘭**	**小暢書房**	**1990**	**注音付き**
8	窗邊的小豆豆	黃靖淑	漢風	1992	
9	窗邊小荳荳	李朝熙	鴻儒堂	1993	中日対照
＊10	窗邊的小荳荳 注音版	朱曉蘭	新潮社	2004	

（鍾季儒 2004：55 による修訂）

表 1 の示したように、異例のミリオンセラーになった『窓

[1] 申玟澈（2004：73）、アグス・スルヤディムリヤ（2004：79）を参照されたい。

ぎわのトットちゃん』の中国語訳は、その初版第一刷りが1981年3月に日本で発行された同年に、台湾でも発行された。これも『窓ぎわのトットちゃん』が日本で広く受けられていることを物語っていると言えよう。

表1において、ゴシック体で示された訳本4から訳本7までは、この調査を始めた当時[2]、市販されているものである。これに対し、絶版となったものも視野に入れた報告には、鍾季儒2004があり、＊印がつけられた訳本10以外、全部で9種類もあるという。そのうち、訳本7は、訳文の傍らに中国語の発音を示す注音字母が施されているという点だけ以外、内容が訳本6と同じである。このような差異は、恐らく、出版社が読者層に対する配慮によるものであると考えられ、便宜上、それぞれを1種類として扱うことにする。

＊印が付けられた訳本10は、本調査を始めた後で出版されたものであるが、現在、台湾で唯一の合法的に販売できる訳本である。これは、2002年に台湾が世界貿易機関（WTO）に入会することによって、外国の作品の発行・販売が大きく規制されるようになった結果である。当然、それに関する作品の翻訳も、原作の翻訳権を取得しないかぎり、翻訳して発行することもできないということになる。執筆時点に、再確認したところ、訳本10は、出版社だけ以外、訳者も書名の訳し方も訳本7と同じである。

なぜ、同一作品であるにもかかわらず、何種類の中国語訳も出たのかは、簡単に結論を出しがたいが、台湾における訳本に関する出版事情と深く関係していると考えられる。しかし、これも、また日本の『窓ぎわのトットちゃん』愛読ブームが台湾に及んでいると物語っている証拠である。

諸訳本に関する調査報告には、鍾季儒2004、2005がある。

[2]『窓ぎわのトットちゃん』中国語訳の語彙データの構築は、2002年から始まったものである。詳しくは、林立萍2002を参照されたい。

鍾氏は、書名だけに対して多様な訳し方から見ただけで、各訳本の内容がそれぞれの訳者の翻訳手法に影響され、ぞれぞれの特色があると推測できると述べ、翻訳作品のつき物でかつ致命傷である誤訳は、どの訳本にも見られるという。

さしあたり、筆者は、『窓ぎわのトットちゃん』を中心とする異言語間の比較語彙研究の一環として、このプロジェクトを始めた当時、訳本が容易に取得できるか、そして普及しているか、という２点を、訳本の選定基準とした。

その結果、世茂出版の訳本 5 は調査の対象として選定された。これは、訳本 5 は、1986 年に初版第一刷が刊行された以降、ベストセラーとして年々増刷され、2003 年 7 月までに修訂版 50 刷も出版され、かなり普及していると見られるからである。鍾季儒 2004 によると、該訳本には、①訳文が簡潔明瞭で、②四字熟語が多用し、③訳者による補充説明が多く見られるという特徴があるという。ただ、一番致命的な誤訳がどのような程度であるかは、まだ分析されている最中である。

現に手元にある訳本５は 2001 年 1 月に増刷された修訂版 46 刷と、2003 年 7 月に増刷された修訂版 50 刷である。ペーパーバックで、縦 20.5 センチ×横 13 センチ。本文は、後書き 22 頁を含め、248 頁分で、1 行 36 字 14 行、表題は 3 行取り、日本語の原本と同じように各章ごとの改頁は無い。本文の途中にある挿絵は全部モノクロームで８箇所（13、39、73、109、147、163、179、199）あり、カラーのは一箇所も見当たらなかった。

内容は、「初去時的車站（原文：はじめての駅）」から「再見・再見（原文：さよなら、さよなら）」に至る 61 章と、「後記（原文：後書き）」からなり、講談社文庫に載せられている「文庫本後書き」の訳文が入っていない。

本調査は、日本語原文の調査と同様に、1 章から 61 章と「あとがき」までを範囲とし、語彙データの構築を進める。

３．語彙データの作成について

「比較語彙研究」で使われている調査単位は「語」もしくは「単語」と呼ばれるものである。日本語の語彙論における「語」あるいは「単語」とは何か、それが何によって認定すべきかという認定基準については、まだ一般の定説になっておらず、研究の目的に合わせて設定するのが現状である。これに関しては、西尾寅弥 1964 を始め、宮島達夫 1983、田島毓堂 1986、前田富祺 1996、小池清治・河原修一 2005 などの先行研究に伺われるだけではなく、規模も信頼度も高い国立国語研究所の行われた種々の語彙調査で使われた長単位や短単位、或いはα単位、β単位といったさまざまな試みによっても確かめられる。

この現象は中国語を対象とした研究においてもさほどの変わりがない。例えば、宮島達夫 1983 は単語認定の難しさが言語の型によって違い、一般的にいえば、屈折語・膠着語・孤立語の順に難しくなると述べ、現代の中国語のように、２つ以上の形態素が結びついて単語をつくることが多い場合、文を単語にきるのはやっかいになると、言及した。これに関しては、また、朱徳熙 1981[3]、趙元任 1968[4] や湯廷池 2000 などの先行研究で試みられた「置換法」や「拡張法」或いは種々の論述からも確認できる。さらに、史上初めてで国際的にも画期的な試みと称せられる中央研究院平衡語料庫（Sinica Corpus)（中央研究院（台湾）1997 年）[5] で試みられた単語

3杉村博文・木村英樹（訳）1995『文法講義』白帝社（原著：朱徳熙 1981『語法講義』商務印書館）を参照されたい。

[4] 丁邦新（訳）1982『中國話的文法』（原著：趙元任 1968”A Grammar of Spoken Chinese”）中文大学出版社を参照されたい。

[5] その報告書「中央研究院平衡語料庫的内容與説明（修訂版）」（技術報告 95-02/98－04 中央研究院資訊科学研究所中文詞知識小組 1995）によると、「Sinica Corpus」は、哲学から科学、社会、芸術、生活、文学などの六大分野に渡って、総字数約二千万字のテキストから“独

認定方法からも、「語の認定基準がまだそれぞれの研究目的に合わせて決める」という現状にとどまっている、と再び確認できる。

このように、語彙研究における単語の認定基準はまだ一定ではないし、文法論でいう単語とさらに異なるところが多かろうと予想される。そこで、どのように中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』を単語ごとに区切るかという単位の設定問題は、作業の目的に目を向けて考えるのが肝要である。

本作業は主として『窓ぎわのトットちゃん』の各訳本の語彙データを通して異言語間の文化の比較や理解を目的とするため、できるだけ同じ基準での単位設定が求められる。

「比較語彙研究」における調査単位については、主として言語上の音声特性に基づき、「文節」を基にして、そこから自立語と付属語を分離するという方法によって調査単位を設定する。作業の目的及び均衡性を考えつつ、音声上の普遍性に基づいた「ポーズ原則」を単語の認定基準とし、中国語訳を調査単位ごとに分割することにした。即ち、形態と形態との間にポーズや“呀(yā)”か“呢(ne̊)”といった語気詞を挿入することができれば、それを一つの単語として認定するという方法である。これに関しては、現在もっとも体系的に中国語の文法を記述する『中國話的文法』(趙元任[6])によると、この「ポーズ原則」は、文を構成する単語間に顕著な識別マークがないため、文における単語の見分けは容易ではない中

立した活動をして、最小の意味を有する形態”、いわば単語約五百万を分析し構成したものである。そして、そのすべてに文における機能のマークが施されているという。大量の現代中国語のテキストから単語ごとに、文における機能が明記されたという点で、史上初めてというだけでなく、国際的にも画期的な試みであろう。「中文句構造樹資料庫（Sinica Treebank)」は、「Sinica Corpus」から文を抽出して、文を構成する各形態間の統語的関係を枝分かれ図で示し、インターネットによって検索できるような形で公開されている。現在、その成果も国家的標準草案「中文資訊処理分詞規範」となっている。

[6] 注４を参照されたい。

国語にとって語とフレーズとの判別にきわめて有効であるという。

４.『窓ぎわのトットちゃん』第１～10章までの語彙データ

現段階では、上述した方針に従い、中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』の語彙データを構築している最中である。本稿は、その一端として第1章から10章までの語彙データの数量性を探ってみる。

参考として、日本語原文の語彙データを田島毓堂2005「『窓ぎわのトットちゃん』語彙４－分布を中心に考える」から抜き出して表２のように掲げておく。

（表２） 日本語原文の語彙データ

異なり語数 4,555語　　延べ語数 78,256語
記号 25種　　延べ 17,139回
記号を除いた異なり語数 4,530語　延べ語数 61,117語

（田島毓堂2005による）

田島2004にも言及されたように、日本語で書かれている文章に記号[7]の種類があまり多く見られないのは普通であるが、表２にも示したように、日本語原文には25種も使われ、延べ全体の２割も占めているという点が注目される。

表３は、記号を含めた中国語訳の1章から10章までの異なり語数と延べ語数の明細である。対照するために、それに当たる原文の語彙データを表４のように掲げておく。

（表３）１～10章までの中国語訳の語彙データ

異なり語数 1,925語　　延べ語数 7,383語

[7] 記号及び文法機能を担う助詞や助動詞類は、実質的な意味を担う名詞や動詞類など、性格が異なると言えるものの、意味を伝達する機能の点では、変わりがないと考えられる。本稿は、これらの異同をまず粗略視し、伝達機能の面に着目して考察することにする。

記号　　19種　　延べ　　1,644回

記号を除いた異なり語数　1,906語　延べ語数　5,739語

（表４）１～10章までの日本語原文の語彙データ [8]

異なり語数　2,752語　　延べ語数　10,932語

記号　　14種　　延べ　　2,340回

記号を除いた異なり語数　1,240語　延べ語数　8,592語

なお、1章から10章までの分量に関しては、日本語原文では約全テキストの七分一を占めているのに対し、中国語訳では、約六分一といった具合である。

全体としては、記号の異なりは、中国語訳のほうはやや多めにあると見られるが、延べ全体に占める割合は、日本語原文と中国語訳とでは、あまり大きな差が見られず、約２割ぐらいである。この点、つまり、日本語原文における記号の使用は、記号の多用と周知されている中国語とあまり大きな差がないということでは、やはり注目するところである。

一方、各章の数量的な性格がどうであるかは、表５のようにまとめてみる。例えば、第１章「初去時的車站（原文：はじめての駅)」は、35行の訳文からなっており、出現した異なり語数は230語で、延べ語数は495語である。その一語の平均使用回数は、2.152である。参考までに日本語原文のデータを田島毓堂2004から抜き出して表６のように掲げておく。

（表５）　中国語訳１～10章までの章別語彙データ

	章　　名	訳文行数	異語語数	延べ語数	延べ累計	一語平均使用回数
1	初去時的車站	35	230	495	495	2.152

[8] 記号を含めた1章から10章までの日本語原文の異なり語数や延べ語数に関するデータは、2005年10月に中国の浙江大学で開催した「国際シンポジウム比較語彙研究Ⅸ」の際に、直接田島毓堂教授に頂いたものである。

2	窗口邊的豆豆	110	652	1813	2308	2.780
3	新學校	19	162	273	2581	1.685
4	我很滿意	35	248	508	3089	2.055
5	校長	70	485	1125	4214	2.319
6	便當	24	152	298	4512	1.960
7	今天開始上學去	45	338	689	5201	2.308
8	電車的教室	30	254	456	5657	1.795
9	上課	53	406	874	6531	2.152
10	山珍海味	59	359	852	7383	2.373

（表６）　日本語原文１～10章までの章別語彙データ

	章　　名	原文行数	異語語数	延べ語数	延べ累計	一語平均使用回数
1	初めての駅	43	199	656	656	3.296
2	窓ぎわのトットちゃん	136	517	2697	3352	5.214
3	新しい学校	21	138	374	3726	2.710
4	気に入ったわ	43	235	755	4481	3.212
5	校長先生	86	378	1606	6086	4.246
6	お弁当	29	151	464	6550	3.072
7	今日から学校へ行く	58	299	1038	7588	3.471
8	電車の教室	33	210	680	8268	3.238
9	授業	63	316	1260	9528	3.987
10	海のものと山のもの	69	309	1404	10932	4.543

田島毓堂（2004：81）より

ここでは、考察の焦点を各章の延べ語数と異なり語数に移る。異なり語数では、中訳の各章は日本語原文のそれぞれより多くあるのに対し、延べ語数のほうでは、少ないということが分かった。当然、これも、また、中国語訳の各章の一語の平均使用回数が日本語原文のより低いということに影響を

及ぼしている。今回の結果は、第 1 章から第 10 章までのデータに限ったものであるが、しかし、なぜ各章ともそういうような傾向が出たのかは、絶対偶然的なことであると考えにくい。これは、おそらく、膠着語の性格が強い日本語は、孤立語である中国語と比べて“テニヲハ”などといった助詞の多用と深く関係していると考えられる。ただし、これは、またさらに各語に意味コードを付け、比較語彙研究で使われている「意味分野別構造分析法[9]」によって実証して裏付ける必要がある。

次に、第 1 章から第 10 章まで使用率の高い前 20 位（表 7）を考察してみる。参考として、日本語原文の語彙データを各欄の右に掲げておく。

[9] これは、田島氏が阪倉 1960 の方法を種種改良して命名したもので、当初の「意味構造分析法」から、湯浅氏の提言により改称した用語である。具体的には、何らかの基準によって分割された意味分野にコードを与え、語彙を構成する個々の語をその属する意味分野に配当し、そのコードを与えた後、コード毎、あるいはいくつかのコードにまとめて集計し、いかなる分野にどれだけの語があるか、言い換えれば、意味分野別の語彙構造を観察するという分析法である。

（表 7）『窓ぎわのトットちゃん』における高出現率の前 20 位

中国語訳本 1～10章				日本語原文				
				1～10章[10]		日本語全文[11]		
順位	調査単位	度数	使用率	順位	調査単位	調査単位	度数	使用率
1	，	667	9.03%	1	、	、	11291	14.42%
2	的	369	5.00%	2	た（助動詞）	た（助動詞）	3749	4.79%
3	。	298	4.04%	3	の（格詞）	の（格詞）	3275	4.18%
4	豆豆	198	2.68%	4	。	。	2868	3.66%
5	」	155	2.10%	5	に（格助）	に（格助）	2794	3.57%
6	「	155	2.10%	6	は（係助）	て（接助）	2787	3.56%
7	地	100	1.35%	7	を（格助）	は（係助）	2424	3.09%
8	！	97	1.31%	8	と（格助）	を（格助）	1920	2.45%
9	：	80	1.08%	9	が（格助）	が（格助）	1575	2.01%
10	媽媽	78	1.06%	10	だ（助動詞）	と（格助）	1555	1.98%
11	是	77	1.04%	11	トットちゃん	だ（助動詞）	1426	1.822%
12	？	70	0.95%	12	「	「	1047	1.33%
13	也	61	0.83%	13	」	」	1015	1.29%
14	她	60	0.81%	14	の（準体）	トットちゃん	869	1.11%
15	了[2]	56	0.76%	15	言う	も（係助）	785	1.00%
16	說	53	0.72%	16	いる（補）	いる（補）	757	0.96%
17	校長	52	0.70%	17	する（サ変）	の（準体）	642	0.82%
18	學校	44	0.60%	18	事	事	602	0.76%
19	我	40	0.54%	19	も（係助）	で（格助）	576	0.73%
20	有	39	0.53%	20	で（格助）	する（サ変）	561	0.71%

[10] 日本語原文1章から10章までの出現順位に関するデータは、2005年10月に中国の浙江大学で開催した「国際シンポジウム比較語彙研究Ⅸ」の際に、直接田島毓堂教授に頂いたものである。

[11] 日本語全文においての出現順位に関するデータは、田島毓堂2004「『窓ぎわのトットちゃん』章別語彙の比較研究」によるものである。

面白いことに、読点は、中国語訳でも日本語原文でも一位になっている。また、中国語訳においては、使用率の高い前20位の中に、記号が7項目もあることが注目される。一方、“豆豆（トットちゃん）”、“媽媽（おかあさん）”、“校長（校長先生）”、“學校（学校）”、“我（わたし）”、“是（英語のbe動詞に相当）”“説（話す）”“有（ある）”は、基調語彙の候補とも言えよう。なお、前20位に入っているものとしては、中国語訳では、自立語が半分もあるのに対し、日本語原文では、文法機能を担う付属語が大半で、自立語がただ「トットちゃん、言う、する、事」との4語しかない。ここでは、再び、膠着語の性格を帯びている日本語に「テニヲハ」といった助詞の多用傾向が伺われる。

表8は第1章から第10章までのそれぞれの単語が出現回数を示す度数統計表である。各欄は、順に①出現度数、②語数、③延べ語数、④累積延べ語数、⑤使用率（%）、⑥累積使用率（%）、⑦累積異なり語数、⑧異なり語率、⑨累積異なり語数率、⑩語例である。出現回数がたった1回しかない度数1は1,279語もあり、異なり語数1,925語の半分以上を超え、66%も占めている。ここでは、ふたたび、二千語も未満という規模の小さい語彙は、その大半が低頻度語である現象が確認できる。

一方、累積使用率50%を満たすために必要な語数C50は、使用率上位から60語で、度数は16である。

（表8）　1章～10章までの度数統計表

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
667	1	667	667	9.034	9.034	1	0.052	0.052	,
369	1	369	1036	4.998	14.032	2	0.052	0.104	的
298	1	298	1334	4.036	18.069	3	0.052	0.156	。

198	1	198	1532	2.682	20.750	4	0.052	0.208	豆豆
155	2	310	1842	2.099	24.949	6	0.104	0.312	「
100	1	100	1942	1.354	26.304	7	0.052	0.364	地
97	1	97	2039	1.314	27.617	8	0.052	0.416	！
80	1	80	2119	1.084	28.701	9	0.052	0.468	：
78	1	78	2197	1.056	29.758	10	0.052	0.519	媽媽
77	1	77	2274	1.043	30.800	11	0.052	0.571	是
70	1	70	2344	0.948	31.749	12	0.052	0.623	？
61	1	61	2405	0.826	32.575	13	0.052	0.675	也
60	1	60	2465	0.813	33.388	14	0.052	0.727	她
56	1	56	2521	0.758	34.146	15	0.052	0.779	了 2
53	1	53	2574	0.718	34.864	16	0.052	0.831	說
52	1	52	2626	0.704	35.568	17	0.052	0.883	校長
44	1	44	2670	0.596	36.164	18	0.052	0.935	學校
40	1	40	2710	0.542	36.706	19	0.052	0.987	我
39	1	39	2749	0.528	37.234	20	0.052	1.039	有
38	1	38	2787	0.515	37.749	21	0.052	1.091	把
34	1	34	2821	0.461	38.209	22	0.052	1.143	就
33	1	33	2854	0.447	38.656	23	0.052	1.195	好
32	2	64	2918	0.433	39.523	25	0.104	1.299	老師
31	1	31	2949	0.420	39.943	26	0.052	1.351	他
30	1	30	2979	0.406	40.349	27	0.052	1.403	、
29	1	29	3008	0.393	40.742	28	0.052	1.455	的 1
28	2	56	3064	0.379	41.501	30	0.104	1.558	什麼
27	3	81	3145	0.366	42.598	33	0.156	1.714	都
26	4	104	3249	0.352	44.007	37	0.208	1.922	人
25	3	75	3324	0.339	45.022	40	0.156	2.078	從
24	2	48	3372	0.325	45.672	42	0.104	2.182	問
23	3	69	3441	0.312	46.607	45	0.156	2.338	……

22	1	22	3463	0.298	46.905	46	0.052	2.390	這
21	1	21	3484	0.284	47.189	47	0.052	2.442	對
20	3	60	3544	0.271	48.002	50	0.156	2.597	又
19	3	57	3601	0.257	48.774	53	0.156	2.753	電車
17	2	34	3635	0.230	49.235	55	0.104	2.857	所以
16	5	80	3715	0.217	50.318	60	0.260	3.117	得

（～中略～）

10	11	110	4285	0.135	58.039	107	0.571	5.558	你
9	14	126	4411	0.122	59.745	121	0.727	6.286	『
8	18	144	4555	0.108	61.696	139	0.935	7.221	一樣
7	17	119	4674	0.095	63.308	156	0.883	8.104	我們
6	23	138	4812	0.081	65.177	179	1.195	9.299	；
5	38	190	5002	0.068	67.750	217	1.974	11.273	一年級
4	60	240	5242	0.054	71.001	277	3.117	14.390	他們
3	124	372	5614	0.041	76.040	401	6.442	20.831	一切
2	245	490	6104	0.027	82.676	646	12.727	33.558	把手
1	1279	1279	7383	0.014	100.00	1925	66.442	100.00	小孩

５．終わり

以上は、中国語訳の語彙データの構築過程、そして数量的な面から、第１章から第 10 章までの語彙データの一部を提示して報告した。当然、本編となるべき実質的な分析は、今後、訳本の最終章及び後書きまでの語彙調査を行い、一つ一つの単語に意味コード及びそれを構成する語素コードを与え日本語の資料と比較することによって完成するということは、言うまでもない。

比較語彙研究は、語彙の総体を対象に、数量的側面と意味

的側面を考慮に入れ、「意味分野別構造分析法」という方法で語彙を語彙として扱う新しい研究分野である。成果としては異言語間だけに限るのではなく、同一言語内の語彙史の記述研究にも多大の寄与[12]をし、語彙研究に新たな可能性をもたらした。今般、その一環として中国語訳の語彙データの構築過程を報告し、そして、その語彙データの一端を提示することによって、『窓ぎわのトットちゃん』を通す異言語間の文化・理解を目指す比較語彙研究の可能性が実証され、その基盤作りともなる。その点で意義が大である。

参考文献

アグス・スルヤディムリア（2004)「『窓ぎわのトットちゃん』の語彙を対象とした日・イ語彙比較－意味分野別構造分析によるコード付けの諸問題―」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅴ』語彙研究会
小池清治・河原修一（2005)『語彙探求法』朝倉書店
阪倉篤義（1960)「万葉語彙の構造――（その一）名詞について――」『万葉』34号
申玟澈（2004)「『窓ぎわのトットちゃん』語彙に見られる日・韓の異同」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅴ』語彙研究会
鍾季儒（2004)「中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』語彙データの構築について－その4訳本の諸問題―」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅶ』語彙研究会
鍾季儒（2005)「『窓ぎわのトットちゃん』の中国語訳本の諸問題－諸訳本の訳語の相違点について―」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅷ』語彙研究会
杉村博文・木村英樹（訳)（1995)『文法講義』白帝社（原著：朱徳熙（1981)『語法講義』商務印書館）
田島毓堂（1986)「語の単位――語彙論的見地から――」『松村博司先生喜寿記念国語国文学論集』右文書院
田島毓堂（1994)「異文化、その比較と理解の一方法――語彙分類を通じての原理的考察」『国際開発研究フォーラム1』名古屋大学国際開発研究科
田島毓堂（1995)「比較語彙論の構想――異文化比較研究のた

[12] 広瀬英史1997、1998a、1998b、2000、2003、2004などを参照されたい。

めに」『国際開発研究フォーラム 2』名古屋大学国際開発研究科
田島毓堂（2000)『窓ぎわのトットちゃん（一部)』語彙表（コード付き)『比較語彙研究の試み５』名古屋大学国際開発研究科
田島毓堂（2003)「比較語彙論への批判と対応」『名古屋大学文学部研究論集　文学 49』名古屋大学文学研究科
田島毓堂（2004）「『窓ぎわのトットちゃん』語彙データ」『名古屋大学文学部研究論集　文学 50』名古屋大学文学研究科
田島毓堂（2004）「『窓ぎわのトットちゃん』語彙 3-章別基調語彙の選定」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅶ』語彙研究会
田島毓堂（2005）「『窓ぎわのトットちゃん』語彙 4-分布を中心に考える-」『愛知学院大学文学部紀要 34』愛知学院大学文学部
湯廷池（2000）「漢語的詞：詞語的分斷」『漢語詞法論集』金字塔出版社
中央研究院資訊科学研究所中文詞知識小組（1995）「中央研究院平衡語料庫的内容與説明(修訂版)」技術報告 95-02/98－04
丁邦新(訳)(1982)『中國話的文法』(原著:趙元任(1968)”A Grammar of Spoken Chinese”) 中文大学出版社
西尾寅弥（1964)「単語認定の基準」『講座現代語６　口語文法の問題点』明治書院
広瀬英史(1997)「比較語彙論的方法による語彙史研究の試み－意味構造分析によるその実践」『名古屋大学国語国文学』80
広瀬英史（1998)「谷崎潤一郎訳『源氏物語』(桐壷巻）を使った語彙史的研究－（その一）単語コードによる考察―」『比較語彙研究の試み２』開発・文化叢書 27
広瀬英史（1998)「谷崎潤一郎訳『源氏物語』(桐壷巻）を使った語彙史的研究－（その二）語素コードによる考察―」『比較語彙研究の試み２』開発・文化叢書 27
広瀬英史（2000）「比較語彙論的方法による語彙研究の可能性とその方法」『比較語彙研究の試み　４』名古屋大学大学院国際開発研究科
広瀬英史（2003)「語彙史研究の一方法を提案する」『日本語論究７』名古屋・ことばのつどい編集委員会　和泉書院
広瀬英史（2004)「『竹取物語』における「用の類」から「体の類」への変化」『田島毓堂先生退官記念論集』和泉書院
前田富祺（1996)「語彙総論」『講座日本語と日本語教育６』明治書院
宮島達夫（1983)「単語の本質と現象」『教育国語』74 (『語彙

論研究』（1994）むぎ書房に再録）
林立萍・張耿明（2002)「中国語の個別語彙の語彙化について――比較語彙研究のために――」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅲ（予稿集)』名古屋大学文学研究科
林立萍（2004)「中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』語彙データの構築について――その１　語とフレーズをめぐって」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅵ』語彙研究会
林立萍（2004)「中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』語彙データの構築についてーその２単語分析についての諸問題」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅶ』語彙研究
林立萍（2005)「中国語訳『窓ぎわのトットちゃん』の単語分析について」『国際シンポジウム比較語彙研究Ⅷ』語彙研究会

付記：本稿は浙江大学で開催された「国際シンポジウム比較語彙研究Ⅸ・語彙セミナーⅥ」（2005年10月13日～16日）で発表した原稿に若干の加筆訂正を行ったものである。席上、田島堂教授から直接日本語原文に関する最新のデータを教えて頂けたことを、この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げる。